

01

山地 里奈さん  
(経済学部1年)  
田中 伶奈さん  
(教育学部1年)

## アスリートとして 今を生き 学ぶことで 未来を見つめる

「りな・れな」の愛称で呼ばれる二人は、東京オリンピックに向けて日本棒高跳び界を牽引するアスリート。この春そろって香川大学に入学しました。中学入学と同時に棒高跳びを始め、すぐに将来を嘱望される存在になったのは山地里奈さん。一方、優秀な走り幅跳びの選手だった田中伶奈さんは、中学2年で棒高跳びに転向。最初の競技会から目覚ましい記録を残して周囲を驚かせます。大会で度々顔を合わせ話もするようになった二人は、共に陸上の強豪・観音寺第一高等学校に進学。棒高跳びのオリンピック選手も輩出した詫間茂コーチのもと、いっしょに練習に励みました。

山地さんは高校2年で、インターハイ、国体、U18日本選手権と、高校三冠を達成。田中さんは、高校3年のインターハイで優勝し、20歳未満の日本記録を更新。日本代表として初出場したアジア大会では、4m00cmを飛んで、5位入賞を果たしています。

「ライバル」から「同級生」となり、次第に互いを高め合う「親友」という関係も築いた二人。時に相手に対する複雑な感情を抱えながらも、「相手がいなかったら、これほど記録は伸びなかった」と認め合う関係です。

アスリート・スチューデントとして熱く今を生きる二人が、どんな未来を描き、香川大学のキャンパスでどんな学びを得ようとしているか。日本陸上競技選手権大会を控えた二人に、算学長が聞きました。



# JUMP!

## 自分を 信じて、 跳ぶ。

今回の「かがアド」は、挑戦する香大生を取り上げます。研究に、スポーツに、地域の活動に、一人ひとりが取り組む内容や目標は違うけど等身大の自分を越えて、さらに上をめざす気持ちは同じ。いまの場所を飛び出して、新しい世界に挑む勇気と覚悟。

自分で動き、いまと未来をみずから変えていく学生の姿は70年前の開学以来、時代がどんなに変わっても、ずっと変わらない香大生の姿であり、香川大学の誇るべき学風です。

跳んだときに見える景色は、跳ぶ人にしか分からない。だから、自分を信じて跳ぶ。

# JUMP!

地元 香川大学から、  
世界の大舞台へ。  
TOKYO2020に向けて跳ぶ。

香川大学で、未来を支える  
学びを得たい

寛 お二人の、棒高跳びの現状  
を教えてください。田中さんは、  
全国レベルで期待されている。  
僕なら潰れそうです(笑)。

田中 期待は嬉しいですが、心  
身のバランスを取るのが難しい  
事があります。練習の時間がも  
う少し欲しいと感じたり。  
寛 田中さんはケガをしていた  
そうですね。

山地 3月に左の前腿を傷め  
ました。今は試合にも出ていま  
すが、調子が上がりません。

寛 心身を鍛える時期だと思  
って、がんばってくださいね。  
ところで二人は、なぜ棒高跳び  
をしようと思ったのですか。

田中 部活で、間近で見ている  
と面白すぎて、幅跳びの記録が  
停滞した時に、転向しました。

山地 田中さんは、最初の大会  
からすごく跳んでいたんです。  
寛 面倒なのが来たなって思う  
よね(笑)。

山地 確かに焦りました(笑)。  
寛 香川大学に来た理由は？

田中 香川県は、棒高跳びの指  
導者にも練習場所にも恵まれて

して学生らしい生活を送る方  
が、棒高跳びの記録が伸びると  
思うんです。10本跳ぶところを、  
時間がなくて7本しか跳べなく  
ても、集中して練習の自身が濃  
くなり、精神的にも強くなるよ  
うな気がするのですが。ちよつと  
お説教臭いですが(笑)。

田中 いえ、よく分かります。

寛 ふたりはライバルで、お互  
いに対してややこしい感情を持  
つ時もあるでしょうから、それ  
もすぐ相手に言えばいい。ス  
ポーツは精神面の影響も大き  
いです。人としてやるべきこと  
はきちんと行つて、自分の中の  
ネガティブな感情を排除して、  
いかに純粋に跳べるイメージを  
持つかが大事な気がします。

## 大学ならではの 積極的な学びを体験中

寛 今までで印象に残っている  
授業はありますか。

田中 「想像力の教室」という  
授業が好きです。先日は星野源  
の「恋」の歌詞を読み、その意  
味を想像して根拠づけました。

寛 僕も車で星野源を聴いて  
います。いいですね。

田中 本当ですか。私も歌詞に

いるので、まず県内の大学を考え  
ました。そして将来は教師になり  
たいので、教育学部がある香川  
大学がいいなと思いました。

山地 私はまだ将来の夢が定  
まっていなくて、経済を学ぶこと  
で視野を広げたいと思いました。

寛 いい考えですね。  
山地 地域活性化に興味があ  
るので、直島のプロジェクトに  
も参加する予定です。他にも、  
留学やボランティア活動など、  
大学でしかできない経験を積  
んで、学んだことを、陸上にも  
その他でも役立てたいです。

## 学生としての充実感が 心の強さをしる

寛 第一線のアスリートは、授  
業中も棒高跳びのことを考え  
たりするのが、気になります。

山地 今、簿記なども学んでい  
て、授業の理解に必死です。

田中 授業中は授業のことを  
考えています……多分(笑)。

寛 違う時もあるのかな(笑)。  
お二人とも自宅通学ですが、家  
の手伝はしていますか。

山地 料理は好きです。

田中 お風呂洗いですね。  
寛 僕は、勉強も家の手伝いも

深みがあつて好きです。

寛 山地さんは、どうですか。

山地 心理学が面白いです。記  
憶、人の性格、やる気の出し方  
などを学んでいて、棒高跳びに  
もプラスになる話ばかりです。

田中 わたしも後期に取ろつ  
と思つています。

寛 授業以外も、高校とは違つ  
ことが多いですね。

山地 施設が充実していて、勉  
強しやすい環境が整つていま  
す。特に図書館はすごくキレイ。

寛 アスリートとしての、今後  
の目標を教えてください。

田中 一番近い目標は、今年日  
本記録を跳ぶことです。今自己  
ベストが4m15cmなので、25  
cm伸ばさないとけません。

山地 大学での陸上生活で自  
己ベストの4m02cmを更新し  
て、全国一番になりたいです。

寛 オリンピックは……

山地 とりあえずは、決勝戦の  
チケットが当選したので(笑)  
田中 それを目指しているの  
で、そのためにも今年中に4m  
40cmを跳びたいです。

寛 がんばってください。よい  
報告を待っています。

**香** 川大学と芝浦工業大学の対流促進事業(うどん県住みます学生プロジェクト)は、平成30年度内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」採択を受け、開始されました。

芝浦工業大学は、4学部2研究科を有する工科系単科大学で、SGU事業(グローバル化牽引型)に採択されました。SGU事業では、海外の学生や企業と一緒に問題解決型のワークショップを展開するPBL型教育プログラム「グローバルPBL」や、海外企業での就労体験を通じてグローバルに活躍する人材育成を目指すインターンシップ型プログラム「国際インターンシップ」などグローバル教育プログラムを実施しています。一方香川大学は、ローカル教育プログラムと

して「瀬戸内地域活性化プロジェクト」「地域インターンシップ」などのローカル教育プログラムを実施しています。

対流促進事業は、香川大学のローカル教育プログラムを芝浦工業大学に提供し、芝浦工業大学が整備したグローバル教育プログラムを香川大学に提供することによる、「グローバルを理解したローカル人材」、「ローカルを理解したグローバル人材」の育成を目的としています。

今年3月には、グローバルPBLを受けに香大生が芝浦工業大学へと出向きました。学びのテーマは「東京オリンピック」。施設、交通、物流などが整備・新設されている東京でフィールドワークを行い、「都市の課題解決としてのオリンピック活用」という視点で講

義も受けました。「テレビの中の出来事だったオリンピックが身近になりました」と言うのは、経済学部3年・山崎若菜さん。両校混成チームで「東京が持つ課題の解決」のための提案も行い、農学部3年・宮垣綾奈さんは「異なる学問を専攻する他大学生と、意見を出し合うことが面白かった」と語ります。

一方創造工学部2年・岡本大輝さんが参加したのは、タイのアサンブション大学も加えた3大学の学生が、デジタルアートを共同制作するプログラムです。「研究に誇りと情熱を持つ他大学生に刺激を受けました」と言う岡本さんは、高松市の塩江温泉鉄道のガソリンカーを復活させるプロジェクトにも携わっており、この経験で得た創造の熱が香川での活動にも勢いを与えそうです。

## 香川大学×芝浦工業大学 対流促進事業

### 東京での体験が、地元への視線を変える

**03** 山崎 若菜さん(経済学部3年)  
宮垣 綾奈さん(農学部3年)  
岡本 大輝さん(創造工学部2年)

# JUMP!

**02** 川嶋 なつみさん  
(大学院 工学研究科 知能機械システム工学専攻 博士後期課程2年)

### ノーベル賞受賞者や世界の若手研究者からHOPEミーティングで学んだこと

ノーベル賞受賞者と全世界の若手研究者が集う1年に1度のHOPEミーティング。四国から初めて参加者に選ばれた川嶋なつみさんは「世の中を科学の力でより良いものに変えたいという研究者たちが熱い思いを語り合い、刺激を与えあう場だった」と振り返ります。「博士課程での研究は苦しい時期も多く、若手研究者と会う機会もあまりありません。ここでは同世代の研究者に会い、闘っているのは1人ではないと励まされました」。それはノーベル賞受賞者も若い頃に経験した道。「研究は熱意があればできる。最後まで自分の夢を貫いた人がノーベル賞を受賞するのだと思いました」と川嶋さん。「受賞者が研究を心の底から楽しんでいたのも印象的でし

た。楽しくないと思ったら、それは自分のしたいことをしていないのだと。『自分の研究している分野が美しいものであると思えるか、自分の感性に問いかけてみなさい』。研究者としてあるべき姿を示されました。実は、ノーベル賞を受賞した研究者たちは、若い頃に一度どこかで出会っているというデータがあるのだとか。出会いは生涯の交流へと続きます。「そんな出会いを作る場に私が参加できたのは、大学が後押ししてくれたから」と川嶋さんは話します。病気の早期発見のために家庭で簡単に使える機械を作りたいと思っていた川嶋さんは、それが医学か薬学か工学なのかは漠然としながらも香川大学工学部に入学。「入ってみると、ある程度自分のやりたいこ

とを決めてどこかに飛び込んでしまえば、それを分かってくれる先生に出会えるものなのだと思います。いまは光センサーを使い、工学と医学の両分野でヘルスケア工学の研究をしています。「香川大学では道がどんどん開けていく。周りの先生や職員の方々が心から応援し助けてくれるという学生支援の環境が整っているからだと思います。今回の参加もそのひとつだと話してくれました。「世界各国の研究者とお互いの夢についても話しました。すべてが研究に裏打ちされた実現可能な夢。地に足のついた議論ができるよさがありました」。川嶋さんの未来を、HOPEミーティングは大きく変え始めているようです。



**高**松の方には「どーけん」の名前で  
おなじみかもしれません。児童文化研究会は子どもたちと触れ合うサークル。大きく4つの活動を行っています。毎月主に香川大学の体育館で行うレクリエーション「わくっこ」。夏に高松市教育委員会と行う「わくわくサマーキャンプ」。秋は大学祭で「わくわくこどもまつり」。さらに子ども会や学校の要請を受けて、キャンプやキャンプファイヤー、クリスマス会やお別れ会でのアトラクションも企画します。「地域の方のおかげで活動させてもらっています」と話すのは、教育学部3年生の木口凌輔さん。部員79人という大所帯のまとめ役です。部員は、キャンプなどレクリ

エーションを担当する「地域」、工作担当の「クラフト」、人形劇を行う「文化」の3つの分科会に所属し、週2回の練習に励みます。「人形劇は脚本を自分たちで作る、時には音楽も作曲。照明もすれば、ステージでは役者になります」という木口さんの説明から受ける印象は、どーけん=才能溢れるエンターテイナー集団。楽しそうな雰囲気に惹かれて入部してくる人も多く、木口さんもそのひとりでした。会長となった今は、みんなが活動を楽しんでいる場を作るのが自分の役割だと話します。部員はほぼ教育学部生ですが、法学部の学生もおり、「違う学部の人が入ってくると発想が新しくなると嬉しそう。取材時にはサマーキャンプの企画も始まっ

ていました。毎年人気なのは肝だめし。「屋島の山道で行うので怖いんですよ!やっている僕たちも怖いですが…。キャンプでは人形劇で飯ごう炊さんの説明をしたり、最後のお別れの前に劇をしてみんなの気持ちをひとつにしたり。子どもたちの反応がとて面白いですよ」と今からわくわくしているようです。「心がけているのは、行事をひとつひとつ丁寧にやっていくこと。今年なにか不具合があって来年からはできなくなってしまう、というのはダメなんです。今あることに全力で取り組む。それを大事にしています」。そんな思いが引き継がれているからこそ、「どーけん」は長いあいだ地域のお子さんや大人たちに愛され続けているのでしょう。

ある時はキャンプのお兄さんお姉さん、  
ある時は人形劇団「かざぐるま」。  
またある時は一緒に工作を作り、  
子どもたちの楽しい思い出を演出する。

05 児童文化研究会

# JUMP!

04 剣道部

## 体も心も凜とした 剣豪がしのぎを削る

**生**涯スポーツとしても、強くしなやかな心を養うためにも、根強い支持のある剣道。平成24年からは、「剣道」「柔道」「相撲」の3種目からの選択制で、「武道」として中学体育の必修領域となりました。香川大学の剣道部は、教育学部の山神真一教授が師範・総監督。最高段位・八段を有する達人で、日本武道学会の理事も務める山神教授の指揮の下、男子26人、女子13人が、日々まさにしのぎを削っています。現在の部員は全員三段以上と、高校時代は地域でその名を轟かせた強者ぞろい。昨年度、男子団体は、「全国教育系大学学生大会」で初優勝を果たし、「中

四国学生剣道優勝大会」で準優勝して全国大会にも出場。女子団体も3年ぶりに全国大会に出場しました。また個人では、岡山の強豪・西大寺高校出身の嶋村悠さん・健さん兄弟が「中四国学生選手権」で準優勝と3位となって話題をさらっています。結果を出す部活動だけに日々の練習も真剣です。毎週月・木曜は朝7時、火・金曜は18時30分、土曜は10時から、基本稽古と地稽古を合わせ1~2時間。2カ月に1度は幸町キャンパス近くの旅館で合宿しながら朝練・夕練を行い、春には関西、夏は九州へも遠征します。今は「中四国学生剣道優勝大会」で男女ともに優勝することを目標に、チームとして

の力を高めています。一方で、競技として個人が長期的に付き合うためには、練習方法、モチベーションの維持など、大学時代に剣道との取り組み方を創造する必要があります。与えられた練習をこなす高校までとは違い、自ら課題を見つけて、克服のために何をすればいいのかも自分で決めていきます。そのためにも「高い志を持った人たちと歩めることは、とても恵まれています」と主将の奥田真生さん。剣道に向かう心は真摯ですが、実は部員のキャラが濃く、いつでも「何か笑える話をしないと行かない」人揃いという伝統も。面白い仲間たちと技を磨きながら、友情も育んでいます。

